

はじめに

中央ユーラシアに居住する民族であるウイグル人の社会は、中国・新疆ウイグル自治区を中心としつつも、カザフスタン共和国、ウズベキスタン共和国、クルグズ共和国など、国境を越えた旧ソ連領中央アジア地域に広域的に分布している。これら中央アジアにおけるウイグル人社会は、主に新疆ウイグル地域からの移住によって形成されたものである。その地域社会の形成と変容の具体相を明らかにすることは、近現代における中央アジアの歴史の変動にアプローチする上でも興味深い作業であると考えられる。しかし、これらウイグル人社会のうち、とくにフェルガナ盆地のウイグル人居住地域の歴史の様相、とくにその形成・展開をもたらした人的移動の実態については、先行研究による知見が豊富とは言い難い。他方、19～20世紀のフェルガナ盆地の歴史的状況に関しては、近年、文書史料や実地調査で得られたデータの活用などに基づき、研究が著しい進展を見せているけれども、盆地内諸集団相互の関わりや、周辺諸地域との広域的な地域間関係など、考究を深めるべき領域を多く残している。

本書は、上記のような問題関心を踏まえた上で、フェルガナ盆地のウイグル人居住地域における調査研究の一環として2003年、2004年、2006年の3回にわたり実施された、ウイグル人住民を対象とするインタビューを、音声データにしたがって記録したものである。インタビューを音声記録データから文字テキスト化したものと、それらを日本語に全翻訳したものの、および解説から構成される。インタビュー内容は、おもに各住民自身もしくはその先祖たちの、中国領新疆のカシュガル地域からフェルガナ地域への移動（もしくは逆方向の移動）の経緯に関わる記憶を軸としている。

なお、当該インタビュー自体、手法なども含めいわば素人仕事のなもので、十分な結果が得られたとは到底言い難い面がある。稚拙で不首尾な点について、ご容赦たまわれれば幸いである。ただ、一部には有用なデータも含まれていると判断されるところから、直接的なデータ提示に向けて作業を進め、ここで公開する次第である。

本書は、NIHU プログラムイスラーム地域研究東京大学拠点における研究の一環として出版されるものである。その過程において、同拠点代表の小松久男教授と事務担当の清水由里子さんより格別のご配慮を賜った。また、ウズベク語の音声データからの文字起こしは、ムニサ・バフロノワさんとフサン・ナスルッラエフさんにお願いし、エルガシュ・ウマロフ先生とバフティヤール・ババジャノフ先生にはウズベク語テキストのご校閲の労を賜った。記して感謝の意を表したい。